

## 功山寺

この曹洞禅の寺院は、紅葉の美しさと国宝の仏殿で知られている。功山寺は地域の政治的・及び軍事的な歴史において大きな役割を担ってきた。1327年の創建以来、この地域の政治史に繰り返し登場してきた。

### 高杉晋作と功山寺拳兵

境内には、銅の軍馬にまたがった革命家、高杉晋作（1839-1867）の銅像がある。長州藩士の高杉晋作は、明治維新（1868年）に至るまでの出来事における重要人物である。彼は「尊王攘夷」をスローガンに掲げ、海外からの影響を抑えようとする運動の熱烈な支持者であった。

1865年1月12日、高杉は寺に武士と庶民の混成軍を集め、長州藩内の佐幕派に対抗するために組織した。この反乱は功山寺拳兵として知られるようになる。高杉の軍勢には主に相撲取りで構成された部隊である力士隊も含まれており、力士隊は後に日本の首相となる伊藤博文（1841-1909）に率いられた。風変わりな僅か80人あまりの高杉の軍は、佐幕派が保有していた金銀の隠し場所を抑えることができた。このことは佐幕派と勤皇派の間のより大きな戦いの発端となり、最終的に長州から佐幕派が粛清された。これは、最終的に徳川政権が倒され、新しい明治時代（1868-1912）が始まる重要な一歩となった。

### 仏殿

仏殿は功山寺創建以前からあり、国宝に指定されている。仏殿は12世紀末から13世紀初頭にかけての日本の仏教建築の一形式である唐様（または禅用）様式で建てられている。この建築様式は宋王朝から導入された。この様式の典型的な特徴は花頭窓（かとうまど）、装飾的な裳階（もこし）、丸みを帯びた支柱（粽）などである。屋根はヒノキの皮で葺かれている。

柱の一本には、1320年4月5日建立と刻まれている。このことは、功山寺の仏殿が建築年代が記録されている日本最古の唐様建築であることを示している。

### 書院（五卿潜居の間）

1835年、この建物は第11代長州藩主毛利元義（1785～1843）によって寄進された。江戸時代末期、幕府と攘夷派との間に緊張が高まる中、京都でのクーデター失敗によって反体制派は京都を脱出することとなった。1863年9月30日、7人の尊皇派公卿が逃亡し、うち5人が功山寺を潜伏先として身を寄せた。彼らが使用していた部屋は現在、「五卿潜居の間」と呼ばれている。